

中学校

平成 12 年 度

教育研究員研究報告書

保健体育

東京都教育委員会

平成12年度

教育研究員名簿（保健体育）

分科 会名	地 区	学 校 名	氏 名
球 技	墨 田	鐘 淵 中 学 校	番 場 良 知
	品 川	八 潮 南 中 学 校	実 松 美 智 代
	中 野	北 中 野 中 学 校	○ 長 島 章
	北	岩 淵 中 学 校	関 口 清 臣
	江 戸 川	小 岩 第 三 中 学 校	川 上 弘 文
	町 田	南 中 学 校	栗 原 建 次
	狛 江	狛 江 第 二 中 学 校	佐 藤 光 宏
器 械 運 動	江 東	第 二 大 島 中 学 校	福 田 克 彦
	大 田	大 森 第 六 中 学 校	○ 桑 田 一 俊
	杉 並	高 井 戸 中 学 校	桑 田 克 明
	八 王 子	中 山 中 学 校	◎ 大 串 広 幸
	府 中	府 中 第 八 中 学 校	関 勝 志
	小 平	小 平 第 一 中 学 校	立 川 裕
	武 蔵 村 山	第 一 中 学 校	河 上 ま す み

◎ 世話人 ○ 副世話人

担当 教育庁体育部体育健康指導課 指導主事 後 藤 彰
同 田 口 康 之

研究主題

「運動の課題を自ら解決していく学習活動への支援の工夫」
—生徒が主体的に立てる学習計画を通して—

目 次

I 研究主題について	
1 主題設定の理由	2
II 研究の概要	
1 研究のねらい	3
2 研究の仮説	3
3 学び方の内容に関する考え方	3
4 研究の構想図	4
III 研究の内容	
1 基礎研究	5
2 支援の観点と予想される効果	6
3 選択制授業の実施における意識・実態調査結果と考察	8
4 実証授業1（器械運動）	13
5 実証授業2（球 技）	18
IV 学び方への支援のまとめ	23
V 研究のまとめと今後の課題	
1 研究の成果	24
2 今後の課題	24

「運動の課題を自ら解決していく学習活動への支援の工夫」

—生徒が主体的に立てる学習計画を通して—

I 研究主題について

1 主題設定の理由

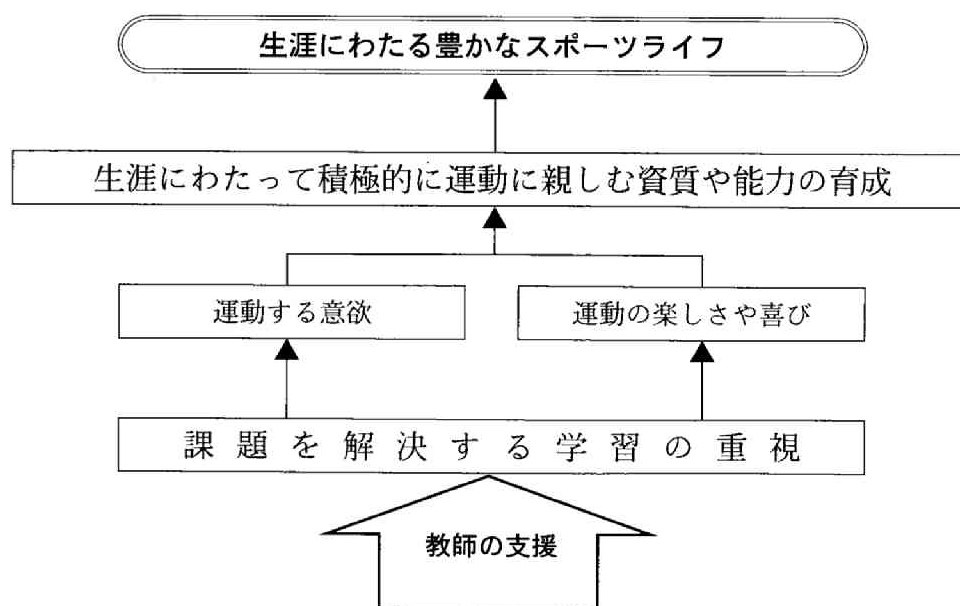
新学習指導要領における中学校保健体育科の改訂の趣旨の中で、体育については、「自ら運動をする意欲を培い、生涯にわたって積極的に運動に親しむ資質や能力を育成するとともに基礎的な体力を高めることを重視する」と記述されている。

このことは、自ら運動することが好きになり、健康的な生活習慣を身に付けていくことが主眼となっている。現在、運動に興味をもち、活発に運動をしようとする生徒と運動に対して苦手意識をもち、運動そのものを嫌がる生徒の両者が存在している中で、運動が本来もっている楽しさを生徒自ら味わうことができるようにすることが必要である。

本研究は、自ら運動をする意欲を培うために、生涯にわたって積極的に運動に親しむ資質や能力を育成する観点から、各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決する学習活動を重視し、その学習活動への適切な教師の支援によって生徒の運動に対する意欲が高まり、生涯にわたって積極的に運動に親しむ資質や能力を育成することにつながると考え、本主題を設定した。

また、生徒自ら課題を見つけ、その解決に向けて取り組む内容を学習計画とし、この学習計画を生徒自身が主体的に立て実践し、改善や見直しを図りながら展開する学習活動を学び方ととらえた。

新学習指導要領にも示されているこの学び方への教師の支援が本研究の重要なキーポイントになると考えている。



Ⅱ 研究の概要

本研究は、選択制授業における課題を解決する学習を中心とした生徒による学習計画の作成とその計画に基づき、自己の課題を解決するための学び方に主眼を置いて進めたものである。

1 研究のねらい

選択制授業において、課題をもち、その課題を自ら解決していく自主的・自発的な学習活動の一層の充実を図るために、各運動の特性に応じた学び方への支援の工夫を本研究のねらいとした。

2 研究の仮説

仮説の設定に当たり、選択制授業を実施している学校の生徒及び教員を対象に選択制授業の意識・実態調査を実施した結果、生徒自ら学習計画を立てる授業をやりたいとする回答が多かった。その際に、生徒は、教師のアドバイスや友達との協力、学習計画を立てるための資料等を求めており、このような点を重視して課題の解決に向けた学び方への支援を探りながら主題に迫るために次のような仮説を設定した。

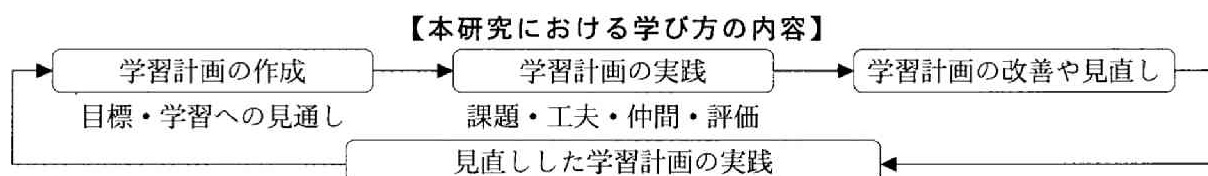
生徒自ら課題を見つけ、課題の解決を図るための学習計画の作成とその計画に基づく活動への支援を工夫すれば、生徒が学習の進め方や学び方を知り、自ら運動の課題を解決していく学習活動ができるようになる。

3 学び方の内容に関する考え方

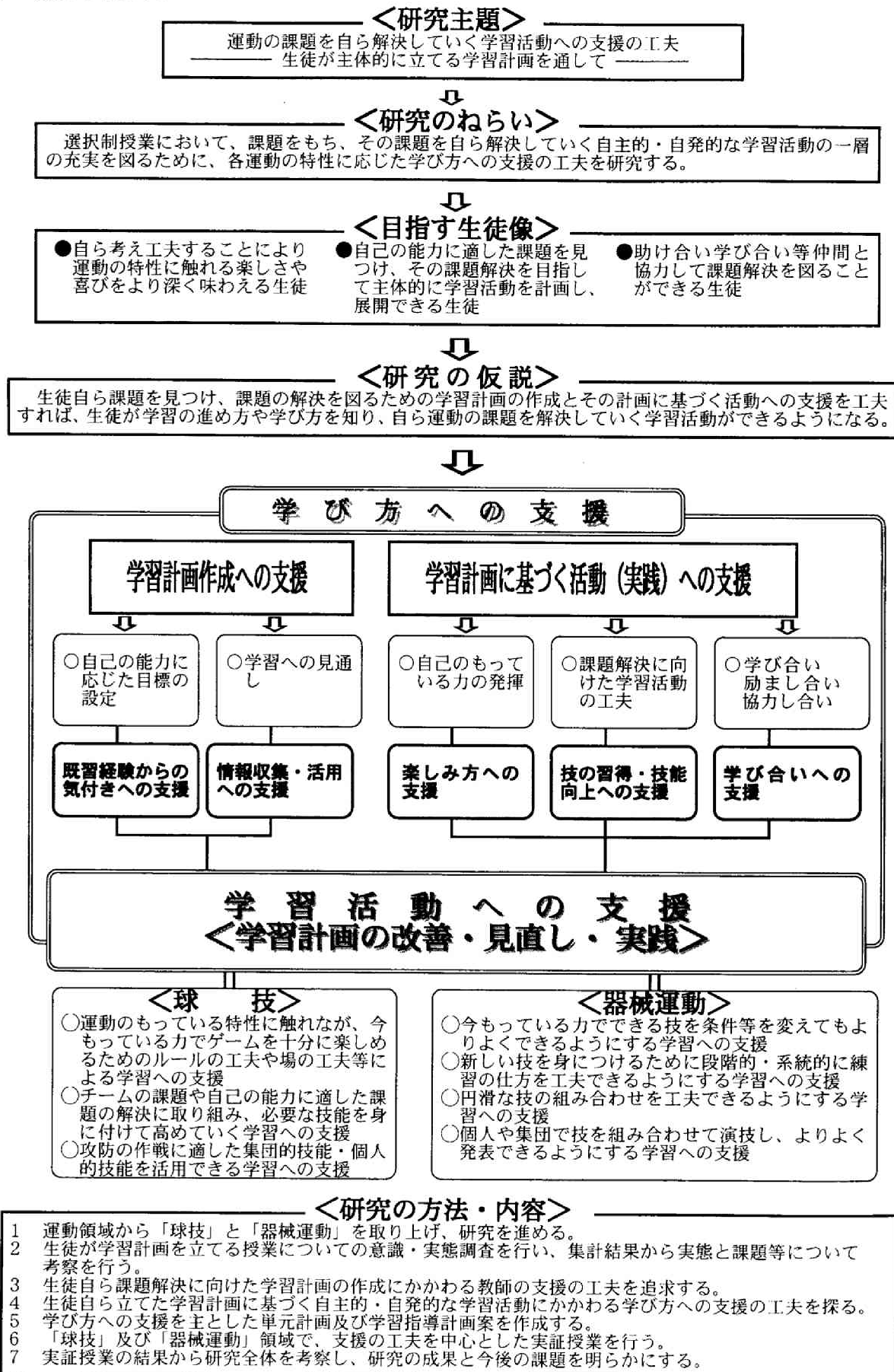
運動の学び方の内容を重視することから、すべての運動領域における学習内容には、技能、態度の内容に新たに学び方の内容が加わり、3つが示された。

本研究においては、この学び方の内容を次のように考えた。

- (1) 創意工夫を生かした学習計画を作成することができる。
 - ① 自己の能力に応じた目標を設定することができる。
 - ② 学習に見通しをもつことができる。
- (2) 自ら作成した学習計画を実践することができる。
 - ① 今もっている力を発揮することができる。
 - ② 個人やチームの課題を見つけることができる。
 - ③ 課題の解決に向けて、学習活動（練習、ゲーム等）を工夫することができる。
 - ④ 仲間と教え合ったり、励まし合ったり、協力し合ったりすることができる。
 - ⑤ 学習活動の状況やその成果を自己評価・相互評価することができる。
- (3) 新たな課題を見つけるなどして、学習計画の改善や見直しをすることができる。
- (4) 見直した学習計画を実践することができる。



4 研究の構想図



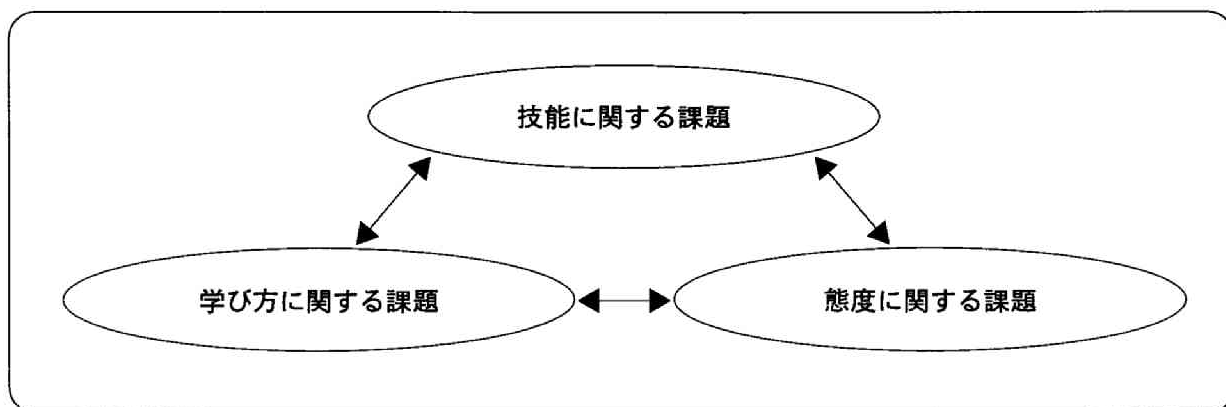
Ⅲ 研究の内容

1 基礎研究

(1) 運動の課題のとらえ方

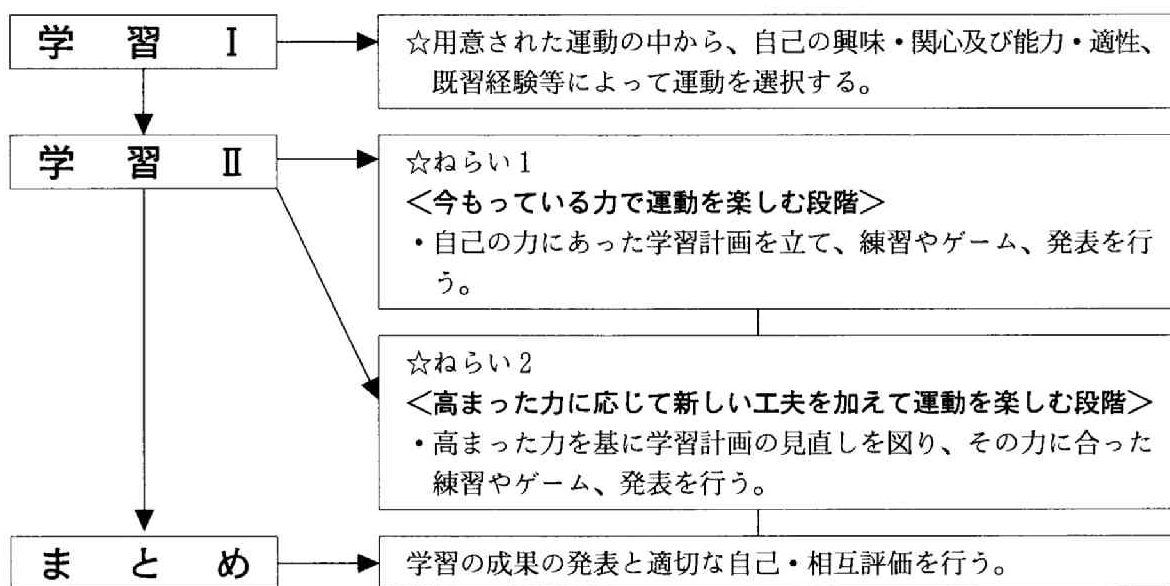
運動の楽しさや喜びを追求するためには、生徒自ら自己の能力に適した運動の課題を把握することが大切である。運動の課題の多くは、技能面からの課題が主となりがちであるが、学び方や態度面からの課題をもつことが重要である。

特に、本研究では、生徒が主体的に立てる学習計画がポイントとなっており、学び方に関する課題の把握が必要である。また、グループでの学習活動を展開しているため、態度面での課題の把握も欠かすことができない。



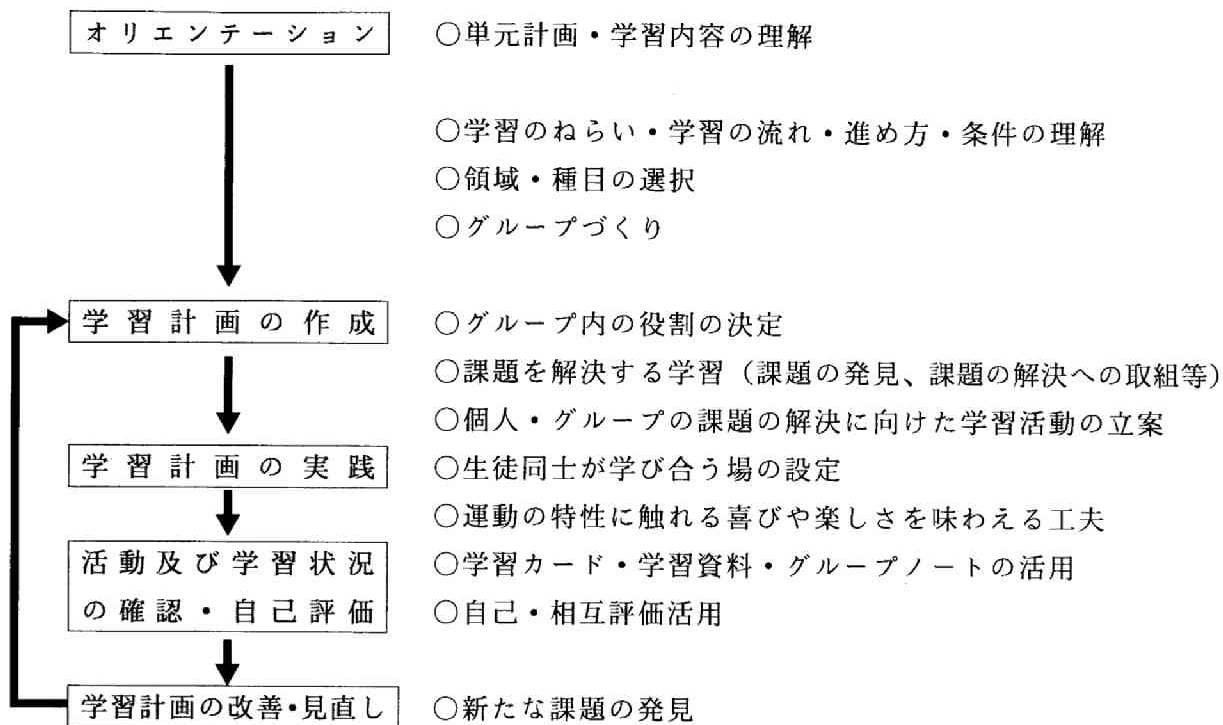
(2) 自ら課題を解決していくための学習過程

課題把握に始まり、その課題を解決していくために学習計画を立てて取り組む学習活動については、次のように学習過程を考えた。



(3) 学習計画作成までの過程

選択制授業において生徒が自発的・自主的に学習を進めるためには、①自己の能力や体力、技能等の把握（自己理解）②適切な課題を発見する場（試しのゲーム等）の設定③運動の特性と学習のねらいの理解が大切である。特に学習のねらいは、指導する教師が的確に示すことによって、生徒が学習に対する見通しをもつことができる。



(4) 支援の概念

用語的には、「他人を助ける」「援助」等の言葉として用いられているが、本研究においては、平成10年度の研究員が概念規定したものを基に、次のように考えた。

☆生徒一人一人が、本来もっているよさや可能性に気付き、自らの資質や能力を伸ばすための教師の営み

また、生徒が本来もっているよさや可能性に気付くことは、教師の日常的なかかわりからくる生徒理解が根底にある。教師の十分な生徒理解と生徒個々の体力や技能等の適切な把握が、教師の支援を支えるものとして押さえた。

2 支援の観点と予想される効果

(1) 教師の支援の観点

選択制授業の実施上の課題の一つに、生徒の学習に対する主体的な態度の育成が上げられる。生徒自ら主体的に学習に取り組む態度を育てるためには、生徒一人一人が自己に適した課題を把握し、その課題の解決に向けて学習活動を展開する中で、明確な観点に基づいた教師の支援が最大のポイントである。

本研究では、保健体育の授業において、課題を解決する学習の充実を図るために、生徒自身が学習計画を立て、その学習計画を支えるための教師の支援の工夫について考えてみた。そこで、生徒の主体的な学習の基となる学習計画への支援を以下の観点から考え、研究を進めた。

① 学習計画作成への支援の観点

ア 既習経験からの気づきへの支援

過去の運動経験 → 自己能力の把握 → 適切な課題の発見

イ 情報収集・活用への支援

情報や資料の活用の仕方の理解 → 適切な学習計画の作成

② 学習計画に基づく活動への支援の観点

ア 楽しみ方への支援

運動を楽しんで行う → 生涯体育への基礎づくり

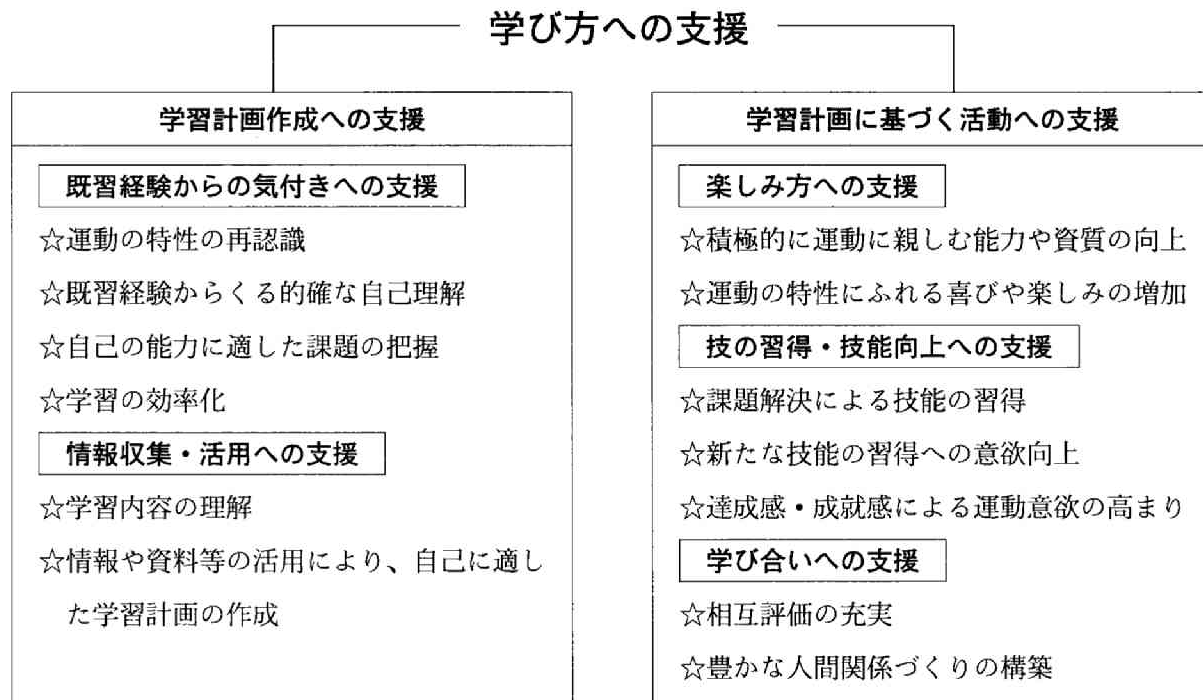
イ 技の習得・技能向上への支援

課題の発見 → 課題設定 → 課題の解決への取組
→ 技能向上・新たな気づき → 自主性・自発性の向上

ウ 学び合いへの支援

グループでの学習 → 教え合い・励まし合い等 → 豊かな人間関係

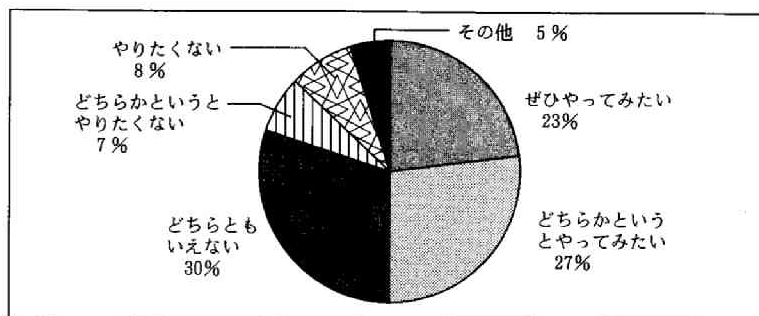
(2) 教師の支援によって予想される効果



3 選択制授業の実施における意識・実態調査結果と考察

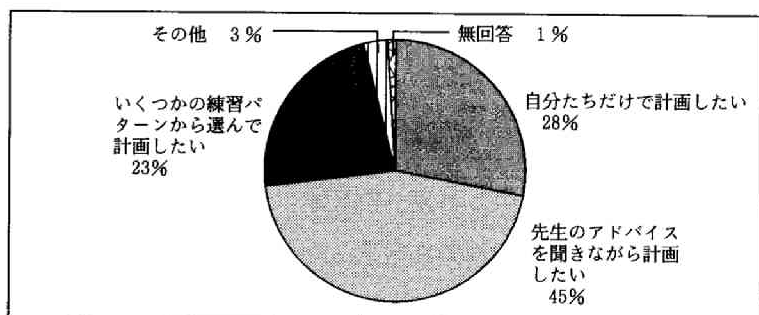
- (1) 目的：選択制授業を実施している学校の生徒と教員を対象に、生徒自ら立てる学習計画等に関する意識及び指導上の効果と課題について把握する。
- (2) 対象：選択制授業を実施している公立中学校保健体育科教員及び生徒（第1～3学年男女）
- (3) 調査数：教員32名 生徒535名
- (4) 生徒対象の調査結果

① 自分たちで学習計画を立てる授業をやってみたいと思いますか。



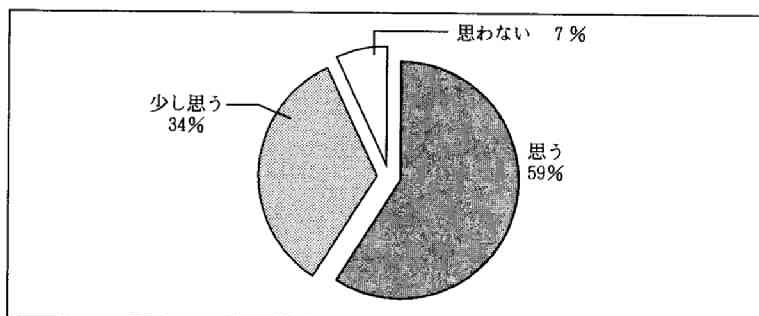
「ぜひやってみたい」「どちらかというをやってみたい」と回答した生徒を合わせると50%である。また、「どちらかというやりにくい」「やりたくない」と回答した生徒は合わせて15%である。

② 自分たちで学習計画を立てる場合、どのようにしたいと思いますか。



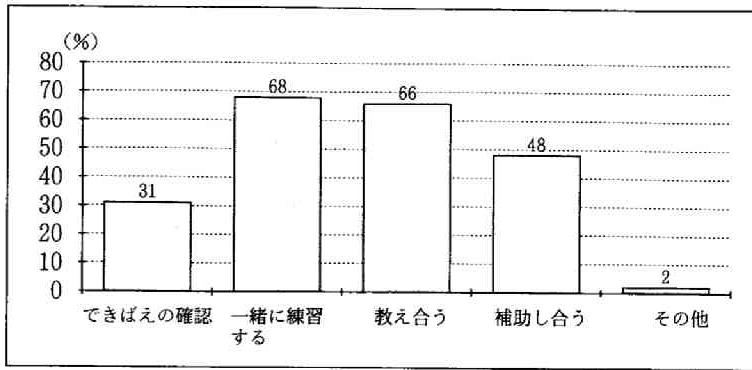
「先生のアドバイスを聞きながら計画したい」と回答した生徒が45%で一番多い数値となっている。次に、「自分たちだけで計画したい」が28%、「いくつかの練習パターンから選んで計画したい」が23%の順となっている。

③ 自分たちで学習計画を立てる場合、仲間と相談すればうまく計画できると思いますか。



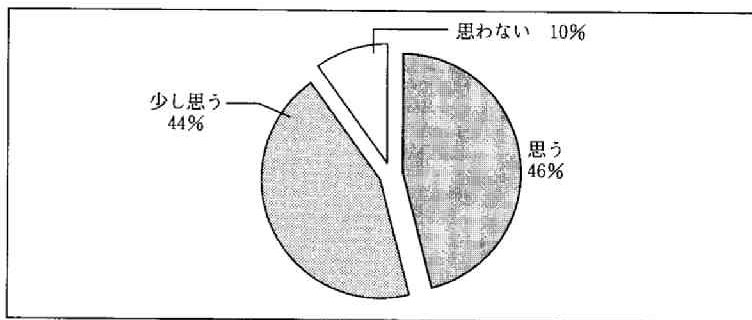
「思う」と回答した生徒が59%となっており、「少し思う」と合わせると90%以上の生徒が仲間との相談でうまく計画できると回答している。

④ 仲間とどのような協力ができると思いますか。(複数回答)



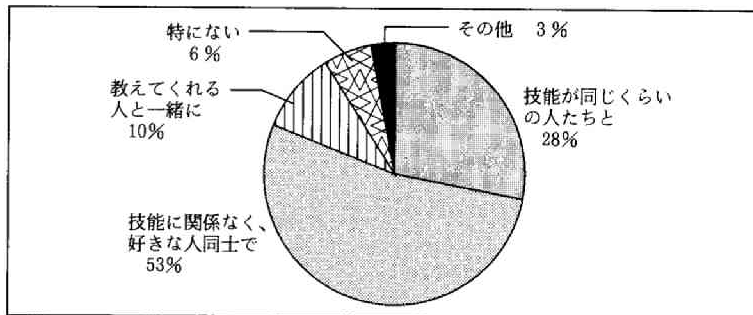
「一緒に練習する」「教え合う」と回答した生徒が65%を超えている。次に「補助し合う」と回答した生徒が48%、「できばえの確認」が31%の順となっている。

⑤ 自分たちで学習計画を立てる場合、資料があればうまく計画できると思いますか。



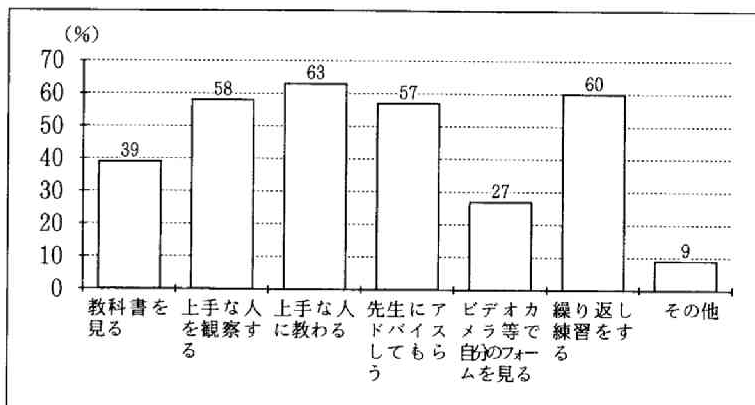
「思う」と回答した生徒が46%であり、「少し思う」と回答した生徒を合わせると、90%の生徒が資料があればうまく計画できると回答している。

⑥ 学習計画を立てる場合、どのような人たちとグループを作りたいと思いますか。



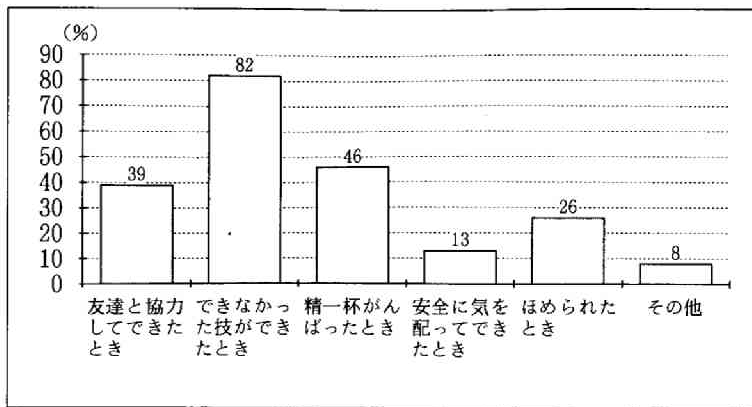
「技能に関係なく、好きな人同士で」と回答した生徒が53%と一番多い数値となっている。次に「技能が同じくらいの人たちと」が28%、「教えてくれる人と一緒に」が10%の順となっている。

⑦ 目標を達成するために、どのような練習の工夫をしますか。(複数回答)



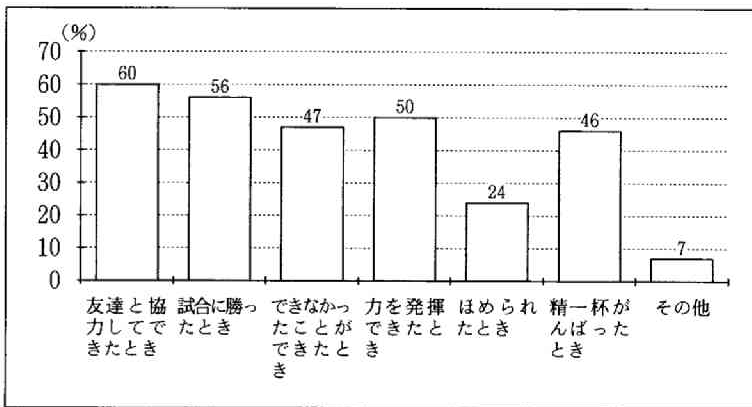
「上手な人に教わる」と回答した生徒が63%と一番多く、続いて「繰り返し練習をする」が60%、「上手な人を観察する」が58%、「先生にアドバイスしてもらう」が57%の順となっている。

⑧ 器械運動の授業で、充実感や楽しさを感じる時はどんなときですか。(複数回答)



「できなかった技ができたときに充実感や楽しさを感じる」と回答した生徒が82%で最も多い。続いて「精一杯がんばったとき」「友達と協力してできたとき」の順に回答した生徒が多い。

⑨ 球技の授業で、充実感や楽しさを感じる時はどんなときですか。(複数回答)

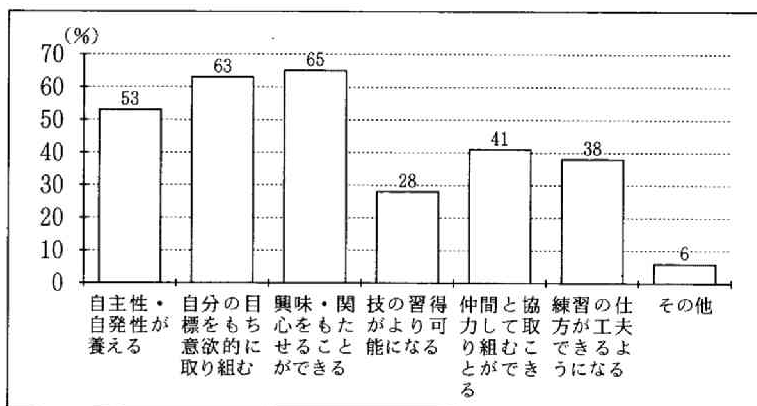


「友達と協力してできたとき」「試合に勝ったとき」「力を発揮できたとき」と回答した生徒がいずれも50%を越えている。

「できなかったことができたとき」と回答した生徒は47%、「精一杯がんばったとき」と回答した生徒は46%である。

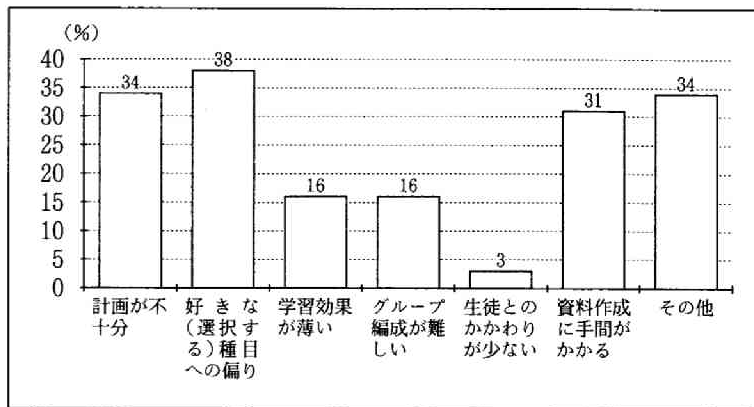
(5) 教員対象の調査結果

① 選択制授業を実施する目的は何ですか。(複数回答)



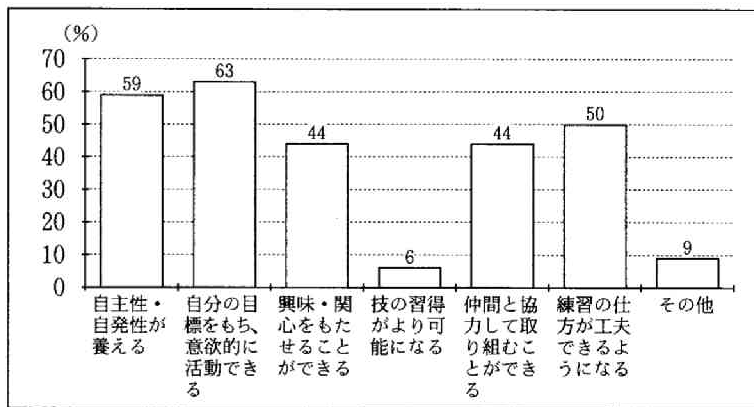
「生徒に興味・関心をもたせることができる」と回答した教員が65%と最も多く、続いて「自分の目標をもち意欲的に取り組むようになる」が63%、「自主性、自発性が養える」が53%の順となっている。

② 選択制授業の実施上の課題は何ですか。(自由記述)



「好きな(選択する)種目への偏り」「生徒の活動計画が不十分」「その他」「資料の作成に手間がかかる」と回答した教員がいずれも30%を超えている。

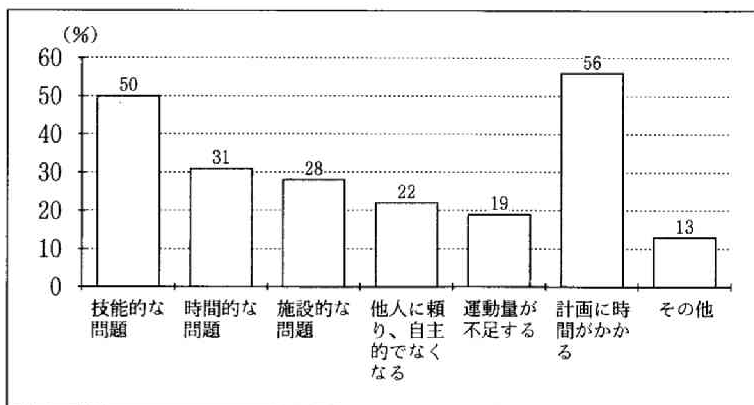
③ 生徒が学習計画を立てる場合、どのような効果が期待できると思いますか。(複数回答)



「自分の目標をもち、意欲的に活動できる」と回答した教員が63%で最も多い。

続いて「自主性、自発性が養える」「練習の仕方が工夫できる」と回答した教員が50%以上である。

④ 生徒に学習計画を立てさせた場合、どのような問題点が考えられますか。(自由記述)



「計画に時間がかかる」「技能的な問題(技能が高まらないのでは)」と回答した教員が50%を超えている。続いて「時間的な問題(事前の準備等)」「施設のな問題」「他人にたより自主的でなくなる」「運動量が不足する」の順となっている。

(6) 考 察

① 生 徒

ア 生徒自ら学習計画を立てる授業を「ぜひやってみたい」「どちらかというやってみたい」と回答した生徒が50%いることから、2人に1人は、主体的に学習活動に取り組んでみたいと望んでいる。

「どちらかというやりたくない」「やりたくない」と回答した消極的な生徒に対しては、適切な学習資料の提示のもとに、自ら立てる学習計画の楽しさを味わわせるような教師の支援が必要である。

イ 生徒自らが学習計画を立てる時には、教師のアドバイスや学習資料の提供、仲間とともに一緒に練習をしたり、教え合ったりする活動を求めている。

このような生徒の願いに応えるためには、教師のアドバイスや学習資料の内容を生徒の実態に即した的確なものにしなければならない。また、生徒同士の教え合い等の場を数多く設定する必要がある。

ウ 課題解決に向けての練習の工夫については、「上手な人に教わる」「繰り返し練習する」「上手な人を観察する」と回答した生徒が多いことから、グループやチーム編成を行う際に、高い技能が身に付いている生徒とそうでない生徒とのバランスに配慮したグループやチーム編成を行う必要がある。

エ 器械運動での充実感や楽しさを感じる時は、「できなかった技ができたとき」と回答した生徒が最も多く、できたときの成就感や満足感を生徒自ら味わえるような指導や支援の工夫が必要である。

また、球技においては、「仲間と協力してできたとき」「試合に勝ったとき」「自分の力を発揮できたとき」と回答した生徒がいずれも半数を超えており、仲間づくりやチームで作戦を立てたり、今もっている力を発揮できる場を設定したりするなどの教師の支援が必要である。

② 教 師

ア 多くの教師が、「生徒が興味、関心をもって活動できる」「自分の目標をもち、意欲的に活動できる」等を選択制授業の実施の目的としている。また、生徒が学習計画を立てる場合に期待できる効果についても同様に考えている教師が多い。

このようなことから、生徒の主体的な学習を展開するには、選択制授業の実施が大変効果的である。

イ 選択制授業の実施上の課題については、「好きな（選択する）種目への偏り」「生徒の活動計画の不十分」等の課題が上げられている。生徒に種目を選択させる際には、第1学年時における各運動の楽しさにふれる既習経験が重要であり、活動計画の作成には、オリエンテーションの在り方がキーポイントとなってくる。

ウ 生徒に学習計画を立てさせた場合の考えられる問題点としては、「計画に時間がかかることや「技能的な問題」に対する懸念の意見が上げられている。生徒の主体的な学習を支える学習資料の充実や技能のポイントに気付かせる教師の支援をより探る必要がある。

4 実証授業1 (器械運動)

(1) 器械運動の単元計画例 (第2学年対象 男女共習 12時間扱い)

① 単元計画例作成の考え方

- 課題の解決に向けて学習計画を立てるために学習の見通しが理解でき、課題の解決の手だてとなる練習方法等の学習資料を工夫する。
- 学習計画の見直しや改善の充実を図るために、友達同士による学び合いや協力し合う場を数多く設定し、仲間とのかかわりの中で自己の学習を振り返ることができるようにする。

② 単元名 器械運動：種目選択 (マット運動、跳び箱運動)

③ 学習のねらい

- 生徒自ら学習計画を立て、課題を解決する能力を養うことができる。
- 安全に留意し、課題の解決に向けて、仲間と協力して練習したり、教え合ったりする中で、運動を楽しみ技能を高めることができる。

段階	時数	学習内容・活動		支援の工夫	評価	
学 習 I	1	○オリエンテーション (学習の仕方について) ○自己分析 (試技など) ○課題の発見 ○グループ編成	へ学習の計画作成支援	既習経験からの気付きへの支援	○既習経験から運動の特性をより理解できるように助言する。 ○自己の課題に気付かせる。	○今身に付けている技能に適した目標設定ができたか。 ○資料が活用できたか。 ○自己に適した学習計画を立てることができたか。
	2	○練習プランの提示 ○学習計画の立て方 I ○学習計画作成		情報収集活用への支援	○学習計画を立てるための学習資料の活用を促す。(副教材・カード)	
学 習 II	3 4 5	ねらい① ○今できる技をより巧くできるようにする。 ○今の力に適した学習計画を立てる。 ○学習計画の実行 ○課題の明確化と解決への手順 ○技能、態度の自己・相互評価	く学習活動計画への支援	楽しみ方への支援	○仲間で励まし合える雰囲気づくりを支援する。	○仲間と励まし合うことができたか。 ○自己の能力等に適した学習計画であったか。 ○場の工夫ができたか。 ○仲間とかわり合うことができたか。
	6 7	○グループでの学習成果の確認 (小発表会) ○技能、協力の自己・相互評価 ○学習計画の改善や見直し ○課題の再確認 (新しい技への挑戦) ○グループの再編成・学習計画の立て方 II ○学習計画作成		技の習得・技能向上への支援	○学習計画が円滑に実施できるように支援する。 ○学習資料を参考に場の工夫について考えるように助言する。	
				学び合いへの支援	○仲間で上達を認め合い、教え合う雰囲気づくりの重要性に気付かせる。	
	8 9 10 11	ねらい② ○新しい技への挑戦 ○高まった力に応じた学習計画を立てる。 ○課題の設定と解決への手順 ○学習計画の実行 ○技能・協力等の自己・相互評価 ○発表用連続技の組み立てと学習	学習計画に基づく活動への支援	楽しみ方への支援	○安全に留意して新しい技へ挑戦できるように指導する。 ○技能のポイントを明確にした練習の工夫について助言する。	○安全に留意できたか。 ○技能のポイントをつかむことができたか。 ○学ぶ姿勢ができたか。 ○学習資料が活用できたか。 ○仲間と協力することができたか。
				技の習得・技能向上への支援	○上達した仲間の動きから、学ぶことの重要性に気付かせる。 ○つまずきの原因究明に学習資料の活用が効果的であることに気付かせる。	
学び合いへの支援				○仲間と協力しながら課題の解決を図っていくことに気付かせる。		
まとめ	12	○学習成果の発表会 ○技能・協力等の自己・相互評価 ○まとめ	へ学習の計画作成支援	○互いに見合うことの大切さに気付かせる。 ○評価活動へ充実させるために観点を示すなどの支援をする。	○学び合いができたか。 ○適切な評価活動ができたか。	

(2) 学習指導計画例（実証授業：12時間扱いの3時間目）

① 学習のねらい


- 自ら立てた学習計画を基に、主体的に活動することができる。
- グループの学習進度に合わせ、学習計画の適切な修正ができる。

	学習内容・学習活動		学習計画に基づく活動への支援	支援による予想と期待される効果	評価		
はじめ 5分	1 準備（グループごと） ・安全に留意	学び合いへの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を明確にし、責任をもたせて安全に準備をするよう助言する。 ・自己の課題を再確認するように示唆する。 ・本時の学習内容をリーダーがわかりやすく説明できるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を明確にすることで効率よく準備ができる。 ・自己の課題が明確になり、仲間とともに学習内容を確認することによって、協力し合って学習に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力して準備ができたか。 ・学習内容が理解できたか。 		
	2 集合、整列、出欠確認、あいさつ ・出欠確認・健康チェック						
なか 35分	3 本時の学習内容の確認 ・本時の学習内容と自己の課題の把握	へ楽しみ支援方 用既習情報活用	4 準備運動、体力作り（グループごと） ・ストレッチ運動	<ul style="list-style-type: none"> ・準備運動の意義について再度気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けが等の事故防止につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に学習活動へ取り組む準備ができたか。 	
	5 学習計画に沿った活動 めあて1 学習計画に基づいて、今の力でできる技を楽しむことができるようにする。		<ul style="list-style-type: none"> ・技の基礎的技能や動きが類似した運動等を段階的、系統的に練習することの大切さに気付かせる。 ・課題の解決に向けて取り組む中で、つまずいている生徒へ個別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技の習得を目指して段階的、系統的に練習をし、技能が身に付いていく。 ・課題の解決に向けての学習の進め方がより明確になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技を習得するための手だてが理解できたか。 ・課題の解決に向けての学習活動ができたか。 		
	6 学習計画の見直し ＜学習計画カードの活用＞ めあて2 学習計画を見直して、今の力でできる技をよりよく巧くできるようにする。		<ul style="list-style-type: none"> ・互いに学び合い、認め合う雰囲気の評価し、学ぶ意欲を喚起する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を高めることによって、器械運動をより楽しく行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間とともに器械運動を楽しむことができたか。 		
	7 学習計画に沿った活動		<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進捗状況を自己評価し、学習計画の改善点に気付かせる。 ・学習計画カードの効果的な活用方法について再度助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価や学習計画カードを参考に、自ら学習計画の改善を図ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画をより効果的に改善できたか。 ・自己評価が適切にできたか。 		
	8 整理運動		<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動において仲間の動きを参考に、互いの技を観察し合い、ともに学び合うことの大切さにより気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決に向けて仲間から、学ぶ大切さに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合う楽しさや喜びを味わうことができたか。 		
	まとめ 10分		9 自己、相互評価（グループごと）	学び合いへの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめに向けて行う自己、相互評価の観点を明確に示すなどの支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観点が明確になったことにより、適切な自己・相互評価ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画に基づいた学習活動を展開できたか。
			10 本時のまとめ				
			11 次時の予定の確認				
12 片づけ、あいさつ、解散							

※ 網掛けの部分は、重点的に支援する項目

(3) 学習計画への支援例（器械運動）

生徒が主体的に立てる学習計画の様式は、下記のとおり毎時間ごとに学習計画カードに学習活動を記入できるようにした。器械運動においては、オリエンテーションの中で、今もっている力でできる技を組み合わせるまでの4時間の学習計画を生徒に最初に立てさせた。（下記の資料は、単元計画の3時間目）

 = 支援例

学習計画カード① 年 組 番 氏名 _____

（3時間目） 選択した種目（マット）運動

☆1 達成したい連続技＜前方倒立回転跳び・前転・開脚前転＞
 ☆2 練習①＜今できる技を練習＞→練習②＜今できる技をよりよくできる練習＞→目標達成

あごを引くことにも気付かせる。

ロイター板の活用を支援する。

仲間の演技を見合い、互いに助言し合う雰囲気づくりへの支援をする。

練習①（前転）

【課題：足をそろえてきれいに回転する】
 足をそろえて大きく転がる。
 腰筋に力を入れる。
 ガカとガマットにつく直前に足を止める。
 マットを強く押す。

膝を意識することに気付かせる。

15分間

↓ ※練習時間の
変更 予定と実際

10分間

<場の工夫>
マットを坂にする。

練習②（開脚前転）

【課題：足をきれいに伸ばす】
 勢いよく大きく転がる。
 ガカとガマットにつく直前に足を開く。

かかとから床に着くことに気付かせる。

20分間

↓ 変更

25分間

<場の工夫>
マットをゆるやかな坂にする。

ある程度の勢いが大切なことに気付かせる。

次時の課題	開脚前転の足をしっかりときれいに伸ばすようにする。		
感想等	できないところを見合ってしっかりとチェックする。		
練習等の工夫ができたか	A ⊙ C	声かけやアドバイスができたか	A・B・⊙
課題意識をもって練習ができたか	A ⊙ C	協力して練習ができたか	A ⊙ C

※ A = できた B = まあまあできた C = あまりできなかった

学習計画カード②

(4時間目)

選択した種目(マット)運動

- ☆1 達成したい連続技<前方倒立回転跳び・前転・開脚前転>
- ☆2 練習①<今できる技を練習>→練習②<今できる技をよりよくできる練習>→目標達成

ひとつひとつの技をていねいに行うことを助言する。

練習①(開脚前転)

【課題：足をしっかりときれいに伸ばす】
足をぞろえて大きく転がる。
かかとからしっかりとマットにつく。
マットを強く押す。

15分間

変更

10分間

<場の工夫>

大きく転がることで回転に勢いが増すことを感じ取らせる。

【課題：両脚をおしりあごを

20分間

変更

25分間

練習の進み具合に合わせて時間の変更をするなど、効率よく練習することに気付かせる。

今できる技をよりできるように!

次時の課題	勢いを付けて床をける。
感想等	こわがらない。

練習等の工夫ができたか	A B C
課題意識をもって練習ができたか	A B C

*A=できた B=まあまあできた C=あ

学習計画カード③

(5時間目)

選択した種目(マット)運動

- ☆1 達成したい連続技<前方倒立回転跳び・前転・開脚前転>
- ☆2 練習①<今できる技を練習>→練習②<今できる技をよりよくできる練習>→目標達成

練習①(倒立ブリッジ)

【課題：安定したブリッジができる】
着地をしっかりとする。
背中をしっかりと反らせる。
寝わない。
あごを離す。

15分間

変更

10分間

<場の工夫>
マットを丸めて山をつくる。
パーマットを使う。

背中を反らせることの重要性に気付かせる。
補助の大切さに気付かせる。

練習②(前方倒立回転跳び)

【課題：しっかりと踏み切る】
助走を生かして踏み切る。
補助をしてもらう。
しっかりと体を反らせる。
足の振り上げを早くする。

15分間

変更

25分間

<場の工夫>
エパーマットを使う。

できるように!

走を生かして、しっかりと踏み切る。

わがらない、手をしっかりとつく。

きたか	A B C	声かけやアドバイスができたか	A B C
練習ができたか	A B C	協力して練習ができたか	A B C

あまあできた C=あまりできなかった

私の器械運動オリンピック日記

(小発表会)

2年 組 番氏名 () 班

第6時間目10月10日(火) 発表する技(前方倒立回転跳び・前転・開脚前転)

目標 きれいに技ができるようにする。

発表して気づいたこと アドバイスチップを貼ろう

まだまだ技(開脚前転)が完璧にできない。
開脚前転で、自分は足をあまり開いていないことに気付いた。
前方倒立回転跳びは、自分でもまあまあできたと思う。

開脚前転は、もう少し足を伸ばせばきれいにできると思う。

開脚前転は、もっと足を開くべし!

前方倒立回転跳びは、足が伸びていてきれいだった。もっと反動を付けてもよいのでは!

本時のできばえは	自己評価	友達からの評価
	A B C	A B C

*A=よくできた B=できた C=もう少し

(5) 器械運動の実証授業のまとめ

		支援の工夫による成果と課題
は じ め	学 び 合 い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の感想欄から、自己の課題の内容が明確に把握できていないときに、教師からのアドバイスがうれしかったと言った感想が多く見られた。 ○ グループのリーダーは、教師の支援によって支えられ、リーダーシップを発揮していた。 ◆ 十分に自己の能力等に応じた課題を適切に把握できていない生徒がおり、試技のやり方をより個に応じて工夫し、実施する必要があった。
な か	技 能 向 上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が作成した学習計画の中に段階的、系統的に立てられた学習活動が多く見受けられた。 ○ 自分のできる技をよりよくしようとする意欲が、学習計画カードの感想からも読みとることができた。 ◆ ティームティーチングによる個別指導を実施したが、つまずきから抜け出すことのできない生徒がいた。生徒のつまずきを分析し、教師同士の共通理解のもとに段階的につまずきを解決していく支援の在り方が必要となった。
	楽 し み	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今もっている力で技を楽しむ場の設定により、生徒一人一人が楽しみながら学習に取り組んでいる姿を多く見ることができた。 ○ 事後調査により「補助やアドバイスをいっぱいした」と答えた生徒が91%であり、学び合いの学習を評価したことによる効果が現れた。 ◆ 器械運動の不得意な生徒は、アドバイスができない状況があり、教師のフォローのもとにアドバイスができるよう支援することが必要であった。
	既 習 情 報	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習経験から課題を適確につかみ、解決に必要な学習情報を活用して、学習活動に取り組む生徒の姿を数多く見ることができた。 ◆ 自己評価の既習経験が少なく、学習計画カードを見ても改善点を明確に示すことができた生徒は少なかった。第1学年時での評価活動の必要性と自己評価等の評価活動の場を多く設定する必要があった。
ま と め	学 び 合 い	<ul style="list-style-type: none"> ○ アドバイスチップカードなどを多用し、互いに教え合う活動は、活発に行われていた。その結果、事後調査における感想には、「みんなで見合った」「教えてもらった」等の言葉が多く見受けられた。 ◆ 自己・相互評価活動の経験不足や学習資料（学習計画カード等）の不十分さから、自己・相互評価の時間を十分に確保することと、よりわかりやすい学習資料を作成する必要があった。

※学び合い＝学び合いへの支援、技能の向上＝技の習得、技能の向上への支援
 楽しみ＝楽しみ方への支援、既習＝既習経験からの気付きへの支援、
 情報＝情報収集活用への支援（○＝成果、◆＝課題）

※アドバイスチップカード＝生徒同士の学び合いの中で互いにアドバイスを記入するカード

5 実証授業2 (球 技)

(1) 球技の単元計画例 (第2学年対象 男女共習 13時間扱い)

① 単元計画作成の考え方

○チームや自己の課題の発見から解決までの学習計画を生徒に作成させ、より主体的な学習活動の充実を図る。

② 単元名 球技：種目選択 (バスケットボール、バレーボールより1種目選択)

③ 学習のねらい

○チームや自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決に向けて、自ら学習計画を立てて主体的に取り組むことができる。

○対戦相手に応じた攻防の作戦を立て、勝敗を競い合う過程や結果から楽しさや喜びを味わうことができる。

段階	時数	学習内容・学習活動	支援の工夫		評価	
学 習 I	1	【オリエンテーション】 ・種目の選択 ・学習の進め方の確認 (学習資料、カードの活用の仕方、活動マナー等) ・グルーピング (チーム決め、役割分担) 【試しのゲーム】 ・運動の特性に触れる楽しさや喜びを味わう。 ・チームや個人の課題を見付ける。 ・ルールを確認する。 【学習計画を立てる①】 ・学習計画の作成 (練習、ゲームの工夫)	学習計画作成への支援	既習経験 情報収集 学び合い	・運動の特性を再確認させるために、資料を用いて説明する。 ・学習計画の作成に必要な資料や学習カードを配布し、活用の仕方が理解できるように説明する。 ・適切なグルーピングが行われるように助言する。	・運動の特性が理解できているか。 ・資料や学習カードの活用の仕方を理解できているか。
	4			学び合い 既習経験 情報収集	・チームカードの活用を促し、チームの動きを観察することから課題を見付ける手だてに気付かせる。 ・個人の課題を確認する学習の手がかりとして、自己評価カードの活用を図るよう助言する。 ・試しのゲームをビデオに撮り、課題の発見や作戦を立てるための資料として提供する。	・チームカードの活用ができているか。 ・チームや個人の課題を見付けることができているか。 ・自チームや相手チームの特徴をつかむことができているか。
				学び合い 情報収集	・互いに意見を出し合って計画を立てるように助言する。 ・資料やビデオ、学習カードを有効に使って練習内容を決めるよう助言する。	・ビデオ等の情報の活用ができているか。 ・チームや個人の課題の解決に応じた学習計画ができているか。
学 習 II	5 6 7	ねらい1 チームや個人の課題の解決を図るとともに、作戦を立ててゲームを楽しむ。 【第1次リーグ戦】	活学習計画への画に基支づ援く	技能向上 学び合い	・つまづいている生徒に対し、原因に気付かせるための個別指導を行う。 ・仲間との協力のもと、練習の中で互いにアドバイスすることの大切さに気付かせる。 ・リーダーを中心に互いに教え合い、励まし合っているグループを賞賛し、学び合う学習の雰囲気高める。 ・学習活動後の自己・相互評価を次時の学習計画の改善・見直しに役立てる必要性に気付かせる。	・計画に沿った練習ができているか。 ・互いに協力した活動ができているか。 ・主体的な活動ができているか。 ・自己・相互評価を次時の学習計画に役立てることができているか。
	8	【確認のゲーム】 ・練習の成果の確認 ・新たな課題の発見 ・相手チームの特徴の把握 ・ルールの工夫		楽しみ方 情報収集	・練習の成果や相手チームの特徴を把握するため、チームカードが有効であることに気付かせる。 ・ゲームの様相をビデオに撮り、課題の発見や学習計画の改善・見直しの資料として提供する。	・意欲的な活動ができているか。 ・チームカードの有効な活用ができているか。
	9 10 11	ねらい2 より高い技能の向上を目指して、課題の解決を図るとともにチームや個人の特徴をより生かした作戦を立ててゲームを楽しむ。 【学習計画を立てる②】 ・より高い技能の向上を目指して課題の解決のための学習計画の作成 ・チームの特徴をより生かした作戦を立ててゲームを楽しむための練習の工夫 【第2次リーグ戦】		成学習への計画支画援作	情報収集	・これまでの練習やゲームから、自己や自チームの能力を生かして作戦を立てることに気付かせる。 ・確認のゲームのビデオを活用して計画を立てる。
ま と め	12 13	【まとめのゲーム】 ・練習や作戦の成果の確認 ・ルールの工夫 【全体のまとめ】 ・学習の評価	活学習計画への画に基支づ援く	技能向上 学び合い	・生徒の活動状況から練習の工夫・改善について、適宜助言する。 ・アドバイスや協力しあって練習を進めることの重要性に気付かせる。	・計画に沿った練習ができているか。 ・主体的な活動ができているか。
				楽しみ方 学び合い	・お互いの良さを認め合い、互いに高めていく姿勢をもつように助言する。 ・学習への取り組みの中でよい点を取り上げ、その成果を適切に評価し、学習への意欲を一層喚起する。 ・お互いの意見交換の重要性について気付かせる。	・作戦を生かしたゲーム運びができているか。 ・チームの中で互いに協力して課題の解決を図ることができたか。

※ 学び方への支援

既習経験：既習経験からの気づきへの支援
 技能向上：技の習得・技能の向上への支援

情報収集：情報収集・活用への支援
 楽しみ方：楽しみ方への支援

学び合い：学び合いへの支援

(2) 学習指導計画例（実証授業、13時間扱いの7時間目）

① 学習のねらい

○学習計画に基づいて主体的に学習活動に取り組むことができる。

○課題の解決に向けて、練習やゲームを工夫し、互いに協力し合い、教え合い、励まし合いながら課題の解決を図る。

	学 習 内 容 ・ 活 動	学習計画に基づく活動への支援	支援による予想と期待される効果	評 価	
はじめ 8分	1 準備運動 ・準備運動 ・あいさつ ・出欠確認、健康状態の確認	へ学 び支 援	・キャプテンのフォローを適 宜教師が行う。	・キャプテンを中心に主体的に活動す る。	・主体的な活動ができて いるか。
	2 本時の学習計画の確認 ・チームごとに本時の学習計画及び課題の確認 ・キャプテン同士の打ち合わせ	収既 集習 ・経 験情 活用 報	・学習資料を掲示し、学習計 画及び課題を確認できるよ うにする。 ・キャプテン同士の話し合い の場を設定する。	・学習計画に基づいて課題の解決に向 けた学習活動がはじめられる。 ・他のチームと協力して学習活動が行 える。	・計画を確認し本時の課 題が把握できているか。 ・練習の場や時間の使い 方の工夫ができてい るか。
な か 32分	めあて1 チームや個人の課題の解決を図りながらゲームを楽しむ。	技 能 向 上 へ の 支 援	・個別に声をかけ、示範や助 言をしながら技能のポイント に気付かせる。 ・互いに技能面でのアドバイ スをし合うよう助言する。 ・課題に応じた学習活動がで きているか確認し、励ます。	・種目の特性に対する理解が深まる。 ・技能のポイントに気付き、個の課題 に意識をもって練習できる。 ・生徒同士で技能を高め合うよ うになる。 ・チームの課題を再確認し課題意識を 高めて学習活動ができる。	・課題に対して意欲的に 取り組むことができ ているか。 ・課題意識をもった練習 ができてい るか。 ・技能を高め合うことが できているか。
	3 本日の第1次リーグ戦 前半戦		楽 し み 方 へ の 支 援	・互いに仲間と協力しあい、 励まし合いながら学習に取 り組む場を設定する。 ・プレーに対して助言をし、 雰囲気高めるために励まし、 賞賛する。 ・より効果的な作戦を立てる ためのチームの特徴に気付 かせる。	・仲間同士での学習によって学び合う 意欲が高まり、学習が一層楽しくな る。 ・チームで協力して楽しみながら練習 ゲームを行えるようになる。 ・チーム一人一人が役割に応じて活動 し、作戦どおりにゲームを進めるこ とができる。
ま と め 10分	めあて2 チームや個人の課題の解決を図るとともに、チーム の特徴を生かした作戦を立ててゲームを楽しむ。	学 び 合 い へ の 支 援		・本時のまとめの際に学習カ ードの活用を促す。 ・本時のまとめから次時のゲ ームに向けて作戦を立てる際 の必要なポイントに気付か せる。	・本時の活動を振り返ることにより、 チームや個人の良くなった点や新た な課題を見つける手がかりとなる。 ・次時のゲームへの見通しをもつこ とができ、意欲も高まる。
	4 課題の解決のための練習 〈予想される活動の例〉 【バレーボール選択】 ○課題：レシーブを強化 する ・円陣パス ・対人レシーブ ・サーブレシーブ 【バスケットボール選択】 ○課題：パスを使って攻撃 できるようにする ・対面パス ・2メンパス ・ハーフコート3対2		5 本日の第1次リーグ戦 後半戦	6 本時の学習のまとめ ・チームで本時の学習活動の評価（課題解決につなが ったか協力して活動できたか 等） ・次時のゲームに向けての作戦を立てる。 7 あいさつ	

(3) 学習計画への支援例（球 技）

生徒が主体的に立てる学習計画の様式は、下記のとおり毎時間ごとに学習計画カードに学習活動を記入できるようにした。球技では、オリエンテーションの中で、「チームや個人の課題の解決を図ることを通してゲームを楽しむ」ことをねらいに4時間の学習計画を生徒に最初に立てさせた。（下記の資料は、単元計画の5時間目）

学習計画カード 1組バレーボールB班 キャプテン：
サーブを入れる。サーブレシーブができるようにする。積極的にボールにさわる。

チーム内での共通理解の重要性に気付かせる。

(1回目)	日 時	10月 17日(火) 第 5 校時
	本時の課題	○サーブ、サーブレシーブの向上
	0分	○用具の準備、準備運動 ○集合、整列、出欠、班員の体調の確認 ○班ごとに本時の課題、ゲーム・練習内容・ポイントの確認
	8分	【第1次リーグ戦(前半)】 【課題の解決のための練習】 ○円陣パス ○サーブ、サーブレシーブ ○8の字パス
	30分	○ゲームに勝つ その練習で意識することは？ ○とにがく落とさないようにつなげる。 ○味方に返すようにする。 ○サーブを前からでもいいから、とにがく相手コートに入れる。 ○つなげたあとすばやく動く。
	50分	【第1次リーグ戦(後半)】 結果 8 対 8 本時の学習のまとめ 本時の反省 次時の課題・学習計画の確認 個人カードの記入 あいさつ、後片づけ
本時の評価	○協力して準備・片づけができた ○協力して練習できた ○課題意識をもって練習できた ○声かけやアドバイスし合えた ○技能が向上した ○楽しく練習やゲームができた ○課題が解決できた	(A) B C (A) B C (A) B C A (B) C (A) B C (A) B C A (B) C
		練習の反省・気づいたこと 試合のときボールをゆずり合っていたから、積極的にさわるように心がける。

互いにアドバイスしあう雰囲気づくりを支援する。

学習資料の活用を促す。

ボールをとらえるポイントや位置に気付かせる。

ワンバウンドを用いるなどの工夫に気付かせる。

話し合いの場を設定し、個々の声を反映させるように助言する。

支援例

A = できた B = まあまあできた C = あまりできなかった

(4) 球技の学習指導例

チームの課題

サーブを入れる。サーブレシーブができるようにする。
積極的にボールにさわる。

(2回目)

日時 10月 18日(水) 第 6 校時

(3回目)

日時 10月 23日(月) 第 7 校時

本時の課題 ○サーブ、レシーブ、スパイク
○積極的にボールにさわる。

0分	○用具の準備、準備運動 ○集合、整列、出欠、班員の体 ○班ごとに本時の課題、練習内														
8分	【第1次リーグ戦(前半)】 【課題の解決のための練習】 ○円陣パス ○8の字パス ○サーブ ○スパイク														
30分	【第1次リーグ戦(後半)】(10分) 本時の学習のまとめ 本時の反省 次時の課題・学習計画の確認 個人カードの記入														
50分	あいさつ、後片づけ														
本時の評価	<table border="1"> <tr> <td>○協力して準備・片づけができた</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>○協力して練習ができた</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>○課題意識をもって練習ができた</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>○声かけやアドバイスし合えた</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>○技能が向上した</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>○楽しく練習やゲームができた</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>○課題が解決できた</td> <td>A</td> </tr> </table>	○協力して準備・片づけができた	A	○協力して練習ができた	◎	○課題意識をもって練習ができた	◎	○声かけやアドバイスし合えた	A	○技能が向上した	◎	○楽しく練習やゲームができた	A	○課題が解決できた	A
○協力して準備・片づけができた	A														
○協力して練習ができた	◎														
○課題意識をもって練習ができた	◎														
○声かけやアドバイスし合えた	A														
○技能が向上した	◎														
○楽しく練習やゲームができた	A														
○課題が解決できた	A														

打点に気付かせる。

バレーボールチームカード

名前	サブ得点	サブレシーブ	トス	スパイク	がんばり度
A	3点	6本	1本	2本	(A) B C
良かった点	サーブがよく入っていた。				
アドバイス	レシーブするときにはもっと腰を低くしよう。				
B	点	3本	2本	0本	A (B) C
良かった点	チームの中心としてよくやっていた。				
アドバイス	チームの中心としてよくやっていた。				
C	点	3本	1本	0本	A (B) C
良かった点	サーブとレシーブの練習が必要				
アドバイス	サーブとレシーブの練習が必要				
D	点	3本	0本	1本	A (B) C
良かった点	レシーブ練習が必要				
アドバイス	声を出してよかった。				
E	1点	6本	2本	0本	(A) B C
良かった点	もうちょっとはいきってやった方がいい。				
アドバイス	もうちょっとはいきってやった方がいい。				
F	5点	7本	1本	0本	(A) B C
良かった点	レシーブがよかった。ミスが少なかった。				
アドバイス	レシーブがよかった。ミスが少なかった。				

☆ゲーム結果 1セット目 15対13 2セット目 15対11

☆チームの特徴：活気がある。技術的には未知の世界

☆チームの課題

サーブを入れる。サーブレシーブができるようにする。積極的にボールにさわる。

※A=よくがんばった B=がんばった C=もう少し

て取り組む。

れること。 ○声を出すこと。

運動

班員の体調の確認
直、練習内容、練習のポイントの確認

半) 練習]

その練習で意識することは?

○ちゃんと相手に返すようにする。

ボールをよく見ることに気付かせる。

○手を伸ばして手首の上にあてる。

○ジャンプしなくてもいいから、手のひらにあたるようにする

半) (10分)

結果 28 対 24

計画の確認

きた	(A) B C	練習の反省・気づいたこと
きた	(A) B C	サーブのとき女子はひじが曲がっていて、力が入って いなかった。 トスミスがあった。
きた	A (B) C	
きた	(A) B C	
きた	(A) B C	
きた	(A) B C	

(5) 球技の実証授業のまとめ

		支援の工夫による成果と課題
は じ め	学び合い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の支えによって、リーダーは自信をもってリーダーシップを発揮していた。 ○ キャプテン同士の話し合いにより、課題の解決に向けた練習が円滑に実施された。
	既習情報	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人カードの学習のまとめから課題を意識して練習できたとする生徒が96.7%（まあまあできたも含）おり、学習資料の掲示が効果的であった。 ◆ 学習資料を十分に生かしていない生徒がおり、一層の個別指導が必要であった。
な か ま	技能向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人カードの反省欄に「サーブの時に肘が曲がっていた」等の技能のポイントに気付いた記述が多く見受けられた。 ○ 教師の師範や技能のポイントに気付かせる指導は、効果的であった。 ○ 事後の調査からアドバイスをよくしてもらったとする生徒が62%おり、互いにアドバイスし合う学習ができていった。 ◆ アドバイスをした生徒（アドバイスできた、少しできたとする生徒合わせて62%）は、ある程度限られた生徒に偏っている傾向があった。どの生徒でも気付いたことが言い合えるようにするために、教師の励ましと仲間同士の認め合いをより高める必要があった。
	楽しみ方	<ul style="list-style-type: none"> ○ 練習内容によってキャプテン同士が話し合い、場を工夫して安全に練習することができていた。 ○ 事後調査から約80%の生徒が協力しあい、励まし合いながら活動できたと回答しており、場の設定が効果的であった。 ○ ルールを工夫するなどして、生徒一人一人が自己のもっている力を発揮できるように工夫したことが効果的であった。 ◆ 技能の習熟度を気にしている生徒がおり、チームの中で決められた一定の役割だけを行っていた。技能の向上に対する意欲を高める教師の支援が必要であった。
ま と め	学び合い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習カードの評価項目欄を生徒が活用し、本時の学習の振り返りや反省点、学びとったことなどが記述されており、学習の進捗状況の把握や新たな課題を見つける手がかりとなっていた。 ○ 事後調査によると89%の生徒が、学習カードや本時のまとめからゲームを分析し、学習資料をもとに作戦を立てるポイントに気付いていた。 ◆ 技能があまり高まらななかった生徒が13%おり、技能の向上につまずきのある生徒への十分な個別の支援が必要であった。

※学び合い＝学び合いへの支援、技能の向上＝技の習得、技能の向上への支援
 楽しみ＝楽しみ方への支援、既習＝既習経験からの気づきへの支援、
 情報＝情報収集活用への支援（○＝成果、◆＝課題）

V 学び方への支援のまとめ

		学 び 方 へ の 支 援 の 工 夫	学 び 方 の 内 容	
学	学習計画作成への支援	既習経験からの気づきへの支援 ＜支援の観点＞ ・過去の運動経験 ・自己の能力の把握	・オリエンテーション時に、運動の特性にふれることができるように試技や試しのゲームを工夫する。(器械・球技)	・運動を楽しみながら過去の運動経験や自己の能力の把握から、適切な課題や目標を発見することができる。(器械・球技)
		情報収集・活用への支援 ＜支援の観点＞ ・活用の仕方の理解 ・学習計画作成の仕方の理解	・学習計画を立てるために資料等の活用を促す。(器械・球技)	・自己の能力に適した課題を発見し、その解決に向けて 創意工夫ある学習計画を立てることができる。(器械・球技)
習	学習計画に基づく活動への支援	楽しみ方への支援 ＜支援の観点＞ ・生涯体育への基礎づくり	・運動の機能的特性に気付かせる。(器械・球技)	・今もっている力で運動を楽しむことができる。(器械・球技)
		技の習得・技能向上への支援 ＜支援の観点＞ ・適切な課題の発見 ・課題の解決への取組	・段階的・系統的な学習活動を展開できるよう助言し、技の習得へのつまずきに気付かせる。(器械) ・チームや自己の課題の解決に向けてのポイントに気付かせる。(球技)	・つまずきの原因を究明し、新たな技の習得ができる。(器械) ・課題の解決に向けて練習やゲームを工夫することができる。(球技)
		学び合いへの支援 ＜支援の観点＞ ・生徒同士の人間関係 ・教え合い、励まし合い ・チームの雰囲気	・仲間との励まし合い、協力し合いの場を多く設定する。(器械・球技) ・仲間と上達を認め合い、教え合う雰囲気づくりの重要性に気付かせる。(器械・球技)	・仲間と励まし合い、協力して学習できる。(器械・球技) ・仲間同士で互いに学ぶ雰囲気づくりができる。(器械・球技)
学	学習計画作成への支援	既習経験からの気づきへの支援	・課題解決に向け、学習計画の具体的な改善点や工夫の仕方について気付かせる。(器械・球技)	・課題解決に向けて学習計画を基に学習に取り組むことができる。(器械・球技)
		情報収集・活用への支援	・練習方法や場の工夫の必要性に気付かせる。(器械) ・自チームや相手チームの特徴をよりの確につかむことの重要性に気付かせる。(球技)	・練習方法や場を工夫することができる。(器械) ・自チームや相手チームの特徴をつかんで作戦を立てることができる。(球技) ・作戦を生かしたゲームができる。(球技)
習	学習計画に基づく活動への支援	楽しみ方への支援	・技能のポイントを明確にした練習の仕方について助言する。(器械) ・チームの中で互いのよさを認め合い、高め合って学習を行うように意識付ける。(球技)	・効果的な練習ができる。(器械) ・仲間と協力しながら学習することができているか。(球技)
		技の習得・技能の向上への支援	・技がよりよくできるように技能のポイントに気付かせる。(器械) ・作戦を生かした攻防を行うために必要な助言する。(球技)	・技を組み合わせ、発表がよりよくできる。(器械) ・作戦を立て役割に応じて、チームや自己の能力を生かしてゲームができる。(球技)
		学び合いへの支援	・仲間と協力しながら課題の解決を図るよさに気付かせる。(器械・球技)	・仲間と共に充実感や満足感を得ることができる。(器械・球技)

VI 研究のまとめと今後の課題

1 研究の成果

選択制授業において、自ら学習計画を立て、課題を解決する自主的・自発的な学習活動の一層の充実を図るために、各運動の特性に応じた学び方への支援の工夫が必要であると考え、次の5つの観点から実証を行い、成果があった。

〔学習計画作成への支援〕

(1) 「既習経験からの気付き」への支援の工夫

- ① オリエンテーションの中に試しの技や試しのゲームの時間を設定したことは、自己の課題に沿った学習計画を立てることに役立ち、生徒が意欲をもって体育学習に取り組むことにつながった。
- ② 既習経験からの学習活動への工夫等を引き出すことによって、学習計画の改善や見直しを図ることに効果的であった。

(2) 「情報収集・活用」への支援の工夫

- ① 学習計画を立てるために学習資料や学習カードの活用を促すことは、チームや個人の課題に応じた学習計画の作成に効果的であった。

〔学習計画に基づく活動への支援〕

(3) 「楽しみ方」への支援（運動の特性に触れる支援）の工夫

- ① 自ら学習計画を立てることによって、課題を解決する自主的・自発的な学習活動ができ、生徒同士で協力し、楽しみながら体育学習に取り組むことができた。

(4) 「技の習得、技能向上」への支援の工夫

- ① 生徒同士のアドバイスにより、苦手な生徒も含め技能の習得や向上につながった。
- ② 技能のポイントに気付かせる支援は、技能の習得や向上に効果的であった。

(5) 「学び合い」への支援の工夫

- ① 学習活動に仲間との教え合いや励まし合いの場を多く設定したことにより、学び合いへの意識が高まり、技能の向上や課題の解決につながった。
- ② 学習カードを使っての本時のまとめは、本時の成果の確認や新たな課題の発見などの意欲の向上につながった。

2 今後の課題

- (1) 学習計画を作成するための資料をより簡略化し、よりわかりやすいものにする必要がある。
- (2) 第1学年時における各運動種目の既習経験が十分でない生徒がおり、第1学年時における各運動種目の指導の充実が一層必要である。
- (3) 学習計画の作成や学習活動の工夫等に当てる時間を十分にとる必要がある。
- (4) 学習計画の改善・見直しに向けた取組において、十分に課題が把握できていない生徒が見受けられ、自己の能力等に応じた適切な課題の発見の仕方をより工夫する必要がある。